

MIPでのNexTVフォーラムの番組展示について

2014年4月23日

NexTVフォーラム事務局 元橋圭哉

資料2-1

【MIP】

- 毎年4月と10月に仏カンヌで開催される国際的なテレビ番組の売買や共同制作促進のための見本市(Marché International des Programmes de Télévision)。世界中から、自社が制作した番組を売り込みたい放送局や番組制作プロダクション、逆に番組を買い付けるバイヤー(放送局や番組流通商社など)が参集する。
- 日本からも長年、NHKや主要民放局、大手制作会社等がブースを構えている。
- 各社がブースを構えて商談に励むほか、メディア・ビジネスのトレンドについて、多くのセミナーも開催される。

【4Kシアター】

- デジタル新メディアのコンテンツ、サービスを一堂に集めた「MIP Cube」のフロアに、主催者が「4Kシアター」を特設(ソニーが上映機材提供・運営など特別協賛)。大型4Kプロジェクターに約50席の客席を設けて、世界の主要な制作者による4K番組についてのプレゼンテーションとスクリーニング(試写)が行われた。
- NexTVフォーラムは、初日(4月7日)と最終日(4月10日)の午前にそれぞれ1時間の枠で登壇し、日本の4K・8K放送に向けた全般的な動向を紹介するとともに、フォーラムに参加する各放送局が制作した4K番組のショートクリップを紹介した。またNexTVフォーラムとしての活動の紹介だけでなく、NHK(自然番組、紀行番組)、日本テレビ(野球中継)、スカパーJSAT(サッカー中継)のプロデューサーが、それぞれの局が制作した4K番組の魅力を訴えた。
- 日本勢以外では英BBC、Skyドイツ、Skyイタリア、独ZDF、仏AFP通信、その他欧米の制作プロダクション、機材提供会社などが、それぞれが制作した4K番組・映像を紹介しながら、自社の4K制作の状況を語った。
- 高画質(高解像度)だけでなく、広色域(微妙な色彩のニュアンスを表現)、広いダイナミックレンジ(明暗差の大きな映像を的確に描写)、なめらかなグラデーションなど4Kテレビがもつ映像表現の多様な広がり、各国の制作者たちが大きな期待を示していることがうかがえた。
- 半面、扱うデータ量の圧倒的な多さや映画システム由来の撮影・制作システムが主流なことから、まだまだテレビ番組を制作していくうえでハンドリングが難しく、番組の量産化には課題が多いことも、登壇者や会場参加者からの異口同音のコメントとして聞かれた。



4Kシアターで発表する日本テレビ・山川氏

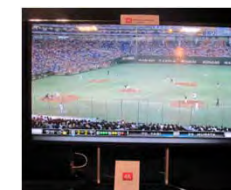


スカパーJSAT・伊藤氏



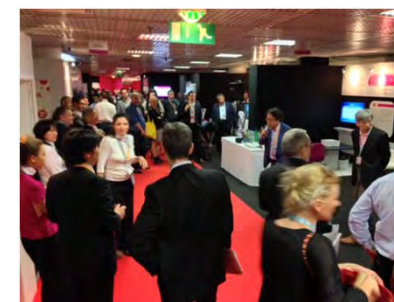
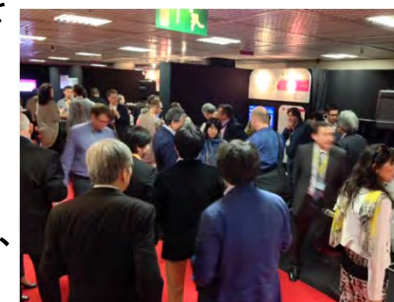
【NexTVフォーラム・ブース】

- 主催者の特別な計らいで、4Kシアターに面した位置にNexTVフォーラムとしてのブースを設置し、84インチ4Kテレビで、フォーラムに参加する放送局各社が制作した4K番組7本(約15分)のビデオクリップを繰り返し展示した。
- 期間中毎日来場者に配られる「MIPTV News」でも、NexTVフォーラムの動向が紹介された。
- 各国の放送局幹部やバイヤーに混じって、ロシア通信主管庁の副大臣、メキシコのパリ駐在外交官などもNexTVフォーラムのブースに来訪した。それぞれの来訪者に対しては、6月から衛星放送で4K放送を開始する準備を進めていることや日本の放送局各社が4K番組の制作に乗り出していることを説明した。



【4Kテレビをめぐる全体状況】

- 当然ながら、まだMIPの主流はHDTVの売買だが、欧米のベンチャー的な制作プロダクションを中心に、欧米、中東、アジアのハイエンド(高所得層)マーケットを狙って、多様な4K番組の制作が進んでいることがうかがえた。
- 一方、早くもアメリカ、韓国のバイヤーなどによる4Kコンテンツの調達動きが激しくなっていて、即交渉したいので番組タイトルリストが欲しい、などの反応もいくつかあった(今回はNexTVフォーラムは日本全体としての4KのPRが主眼だったので、個別番組の売買については、各放送局のブースを紹介した)。NexTVフォーラムのブースでは直接見聞していないが、日本の放送局関係者が4K制作プロダクションのブースを回った際に聞いた話によると、4K番組の買い占め、価格吊り上げも始まっているらしい。



【課題と可能性】

- “ロードマップ”で4Kサービス始動の年と位置づけられた2014年度早々に、国際的なテレビマーケットで、日本の4Kテレビについて一定の存在感を示すことができた。半面、欧米の小規模な番組制作プロダクションでも、番組のプロモーション映像やブローシャーなどの広報資材が整っていた中、今回はNexTVフォーラムとしてブースを構えプレゼンテーションすることが精一杯で、必ずしも十分な広報体制をとれなかった点は、今後の課題となった。
- 全体の番組売買のマーケットサイズとしてはまだまだ小さいものの、国際的にハイエンドマーケット向けの4Kテレビのサービス(ネット配信や放送)が始まろうとしている中で、日本の4K番組制作も、最初から国際市場を視野に入れて展開していく姿勢を示すことが4Kのコンテンツ拡充に役立つだけでなく、日本の情報発信、文化発信、4K(番組、製品)の世界への普及など、複眼的な視点からも必要になるのではないかと強く感じた。

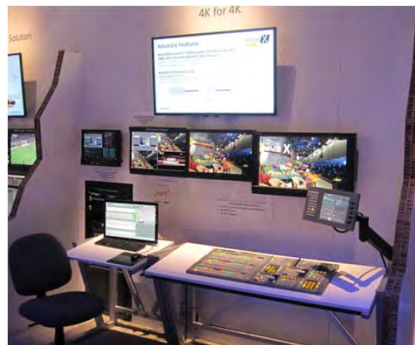


【参考・NAB2014】

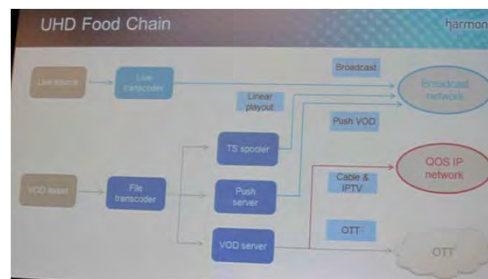
- 一方、同時期に米ラスベガスで開催されたNAB(全米放送事業者連盟の年次総会:メディア・トレンドに関するセミナーと最先端の放送機器展示)では、急速に、4Kの撮影・制作機材が「シネマ・システム」から「テレビ・システム」に転換しようとしている状況がうかがえた。こういう機器が普及していけば、番組制作の手間やコストの低減につながり、良質の4K番組を多く制作できる環境が広がっていくものと期待される。
- また映像圧縮技術や配信システムについての技術提案も多く示され、従来の放送型(衛星などによる一斉同報)、ネット配信型(VODなどのOTTサービス)に二分するのではなく、1つの送出サーバーで同じファイルを共有し両者を兼営できるようなソリューションも発表されていた。
- 欧州、南北アメリカのスペイン語圏を主ターゲットにする衛星放送会社のHispaSat社がこの4月から試験的な4K放送を北米、中米向けに開始したとの発表もあり、4Kテレビの番組制作やサービスが、放送やネット配信で本格化してくるという胎動が感じられた。



高性能PCを使った、低コストの4Kポストプロダクションシステム



4Kネイティブのスイッチャーなども目立っていた



HISPASATの4K放送の受信デモ(テレビ下はプロタイプSTB)



- NAB2014の会場では、NHKとNTTの展示ブースの一角で、それぞれ、既存の4Kカメラと高性能アップコンバート装置により比較的簡便に高画質の8K映像の撮影を可能にするカメラシステムや、NexTVフォーラムの試行的4K衛星放送でも使用される予定のHEVCリアルタイムエンコーダーの同型機などが展示され、あわせて、NexTVフォーラムの活動を紹介するパネルが掲出された。



NHKブースでは4Kカメラ映像を8Kにアップコンバートする装置を展示



NTTブースではHEVCリアルタイムエンコーダーを展示